

内藤建設興業株式会社



環境経営レポート（対象期間：2024年4月～2025年3月）



目 次

I.	ご挨拶 環境経営方針	・・・	1
II.	組織の概要	・・・	2
	(1) 名称及び代表者名		
	(2) 設立		
	(3) 所在地		
	(4) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先		
	(5) 事業内容		
	(6) 事業年度		
	(7) 事業の規模		
	(8) 組織(実施体制図) および役割・責任・権限		
III.	認証・登録の対象範囲	・・・	4
IV.	主な環境負荷等の実績	・・・	5
	(1) 全社		
	(2) 環境活動への取組の経緯		
	(3) 運送業・産業廃棄物収集運搬業の二酸化炭素排出量		
V.	環境経営目標	・・・	7
	(1) 中期目標：本社・尼崎作業所・堺作業所（建設業他）		
	(2) 中期目標：星田事業所・星田出張所（金属精錬業・運送業） 堺出張所（産業廃棄物収集運搬業）		
VI.	環境実績（2024年度実績）	・・・	10
	(1) 本社・尼崎作業所・堺作業所（建設業他）		
	(2) 星田事業所・星田出張所（金属精錬業・運送業） 堺出張所（産業廃棄物収集運搬業）		
VII.	環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の環境経営計画	・・・	13
VIII.	環境関連法規等の遵守状況の評価の結果	・・・	14
IX.	代表者による全体の評価と見直し・指示	・・・	14

I.ご挨拶

内藤建設興業株式会社は、特定顧客の工場常駐による建築・土木工事業を主体とし、工場（金属精錬業）内作業産業廃棄物収集運搬、運送業ならびに不動産賃貸業等を事業活動とする企業です。

昭和9年の創業以来、多くのお客様から信頼とご支援を賜りながら堅実な経営を営むことができ、お陰様でまもなく90年を迎えようとしています。

2017年度より当社は、エコアクション21に基づく環境経営システムを構築し運用開始することによって地球環境に優しい企業として、持続可能な循環型社会の構築を目指す新たな一歩を踏み出しました。

同時に、経営における課題とチャンス定期的に明確にし、それを踏まえた上で環境経営活動を全社員が同じ意識をもって取り組んでいくことを目標に環境意識を高め、継続的に環境負荷の低減に取り組んでいくことを宣言し、8年目となる本年は、意識レベルの更なる向上に向けてSDGs（持続可能な開発目標）の中からできることを探究します。

「あまがさきSDGsパートナー」（2021年登録）として掲げている取り組みの緑化、風力発電、廃材利用等を引き続き検討（グリーンタワー提案）するとともに、改めて圧倒的負荷の大きい運送部門についてGマーク取得を目指し新・環境基本行動計画を指針として、より具体的な取り組みを行ってまいります。

- | | | |
|-----------------|-----|----------------------|
| ① エコドライブの普及・促進 | ・・・ | 燃費改善の取り組み |
| ② アイドリングストップの徹底 | ・・・ | 燃費改善の取り組み |
| ③ 先進環境対応車の導入促進 | ・・・ | 当面困難につき、長寿命化への取り組み |
| ④ 輸送効率化の推進 | ・・・ | 実車率、積載率向上に向けた帰り便獲得 |
| ⑤ 騒音の低減 | ・・・ | 周辺への配慮と車輛の長寿命化への取り組み |

環境経営方針

当社は、一般土木・建設工事業、運送業、金属精錬業、産業廃棄物収集運搬業等の各事業分野において、また地域の一員として「もったいない」*を標語とし、地球環境の保全のために環境負荷の一層の低減を図るべく全社員同じ意識をもって自主的・積極的に環境への取組を推進し、継続的に改善していきます。

1. 環境関連法規制遵守します。
2. 二酸化炭素排出量の削減を推進します。
(電気、ガソリン、軽油、都市ガスの使用量の削減)
3. 産業廃棄物の排出削減と事務所の一般廃棄物の分別・削減を推進します。
4. 建設現場等において建設資材のリサイクルを考慮し、再生資源の利用を推進します。
5. 水使用量の削減を推進します。
6. 環境に配慮した活動を推進します。
7. 地域の一員として緑化及びその維持をさらに推進します。
8. 本方針を全従業員に周知徹底します。

制定日 : 2016年9月1日

改定日 : 2024年4月1日

代表取締役

内藤 隆也

*環境3R + Respect = もったいない

Reduce（ゴミ削減）、Reuse（再利用）、Recycle（再資源化）という

環境活動の3Rをたった一言で表せるだけでなく、かえがえのない地球資源に対する

Respect（尊敬の念）が込められている言葉、「もったいない」。

II. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名 内藤建設興業株式会社
代表取締役 内藤 隆也
- (2) 設立 昭和26年3月10日 法人登記（創業 昭和9年3月）
- (3) 所在地

本社・尼崎作業所	〒661-0977 兵庫県尼崎市久々知3丁目11番1号	
星田事業所	〒576-0041 大阪府交野市私部西5丁目15番12号	
星田出張所	〒576-0017 大阪府交野市星田北4丁目26番5号	新関西製鐵(株)星田工場内
堺出張所	〒590-0981 大阪府堺市堺区塩浜町5番地	新関西製鐵(株)堺工場内
堺作業所	〒592-0001 大阪府高石市高砂1丁目3番地	DIC(株)堺工場内
豊橋営業所	〒441-8077 愛知県豊橋市神野新田町字水神下196	令和7年4月開設
資材倉庫	〒661-0977 兵庫県尼崎市久々知3丁目9番	
廃棄物置場	〒661-0977 兵庫県尼崎市久々知3丁目18番7号	

- (4) 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先

責任者	総務部課長 窪田 憲生	TEL：06-6499-1951
担当者	総務部 朝田 真規子	FAX：06-6499-1925
		Email：naitogc1@sweet.ocn.ne.jp

- (5) 事業内容

一般土木・建設工事業・運送業・金属精練業・不動産賃貸業・産業廃棄物収集運搬業

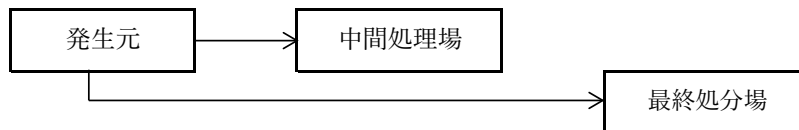
【1. 建設業許可の内容】

許可自治体	兵庫県	兵庫県
許可番号	(特-2) 第210463号	(特-4) 第210463号
許可年月日	令和2年7月10日から	令和 5年1月15日から
有効期限	令和7年7月 9日まで	令和10年1月14日まで
建設業の種類	建築工事業 とび・土工工事業	土木工事業 屋根工事業 鋼構造物工事業 舗装工事業 板金工事業 防水工事業 内装仕上工事業 建具工事業

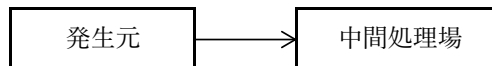
【2. 産業廃棄物収集運搬業許可の内容】

許可自治体	大阪府	兵庫県	
許可番号	第02700015786号	第02803015786号	
許可年月日	令和 6年4月21日から	令和 6年3月10日から	
有効期限	令和11年4月20日まで	令和11年3月 9日まで	
積替え・保管	含まない	含まない	
許可品目	汚泥	●	—
	ガラスくず	●	—
	鋳さい	●	●
	がれき類 石綿含有産業廃棄物 含む	●	—

2. -① 鋳さい



2. -② レンガ屑



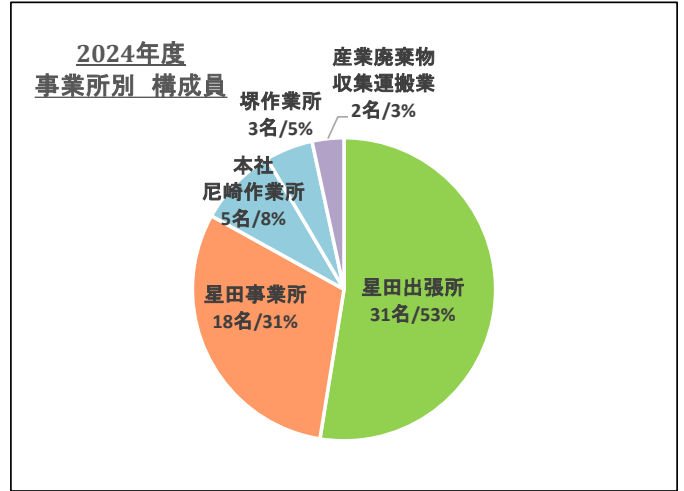
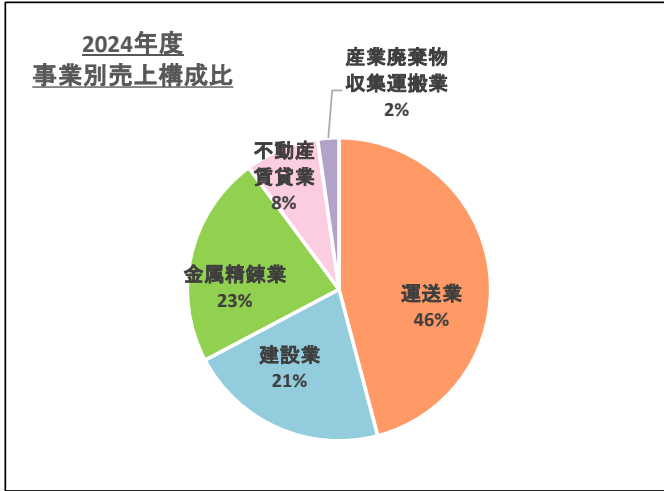
- (6) 事業年度 4月～翌年3月

(7) 事業の規模

【1. 資本金】 48百万円

【2. 売上高】 974百万円 (令和6(2024)年度実績)

①建設業	年間工事完成高	208 百万円			
②運送業	年間売上高	447 百万円	運送量	166,049 t	運送距離 1,580,484 km
③金属精錬業	年間売上高	220 百万円			
④不動産賃貸業	年間売上高	77 百万円			
⑤産業廃棄物収集運搬業	年間売上高	22 百万円	運搬量	11,627 t	運搬距離 48,340 km



事業場	本社 尼崎作業所	星田事業所	星田出張所				堺 出張所	堺 作業所	資材 倉庫	廃棄物 置場	合計
			所長 労務 事務	金属精練	運送	建設					
職位 事業等	役員 設計・建設 不動産・事務	役員 運送 労務・事務					産業 廃棄物 収集運搬	建設	建設	建設	
役員・従業員数	5名	18名	2名	26名	3名	無人	2名	3名	無人	無人	59名
延べ床面積	827㎡	248.12㎡	40㎡ * 1	23,058㎡ * 2	* 1に 含む	* 1に 含む	14㎡ * 1	39㎡	375㎡	480㎡	25,081.12㎡

* 1 賃貸事務所 * 2 新関西製鐵(株)所有、生産施設届出面積 (工場立地法)
* 豊橋営業所2025年5月開設

【運送業用車両：計21台】

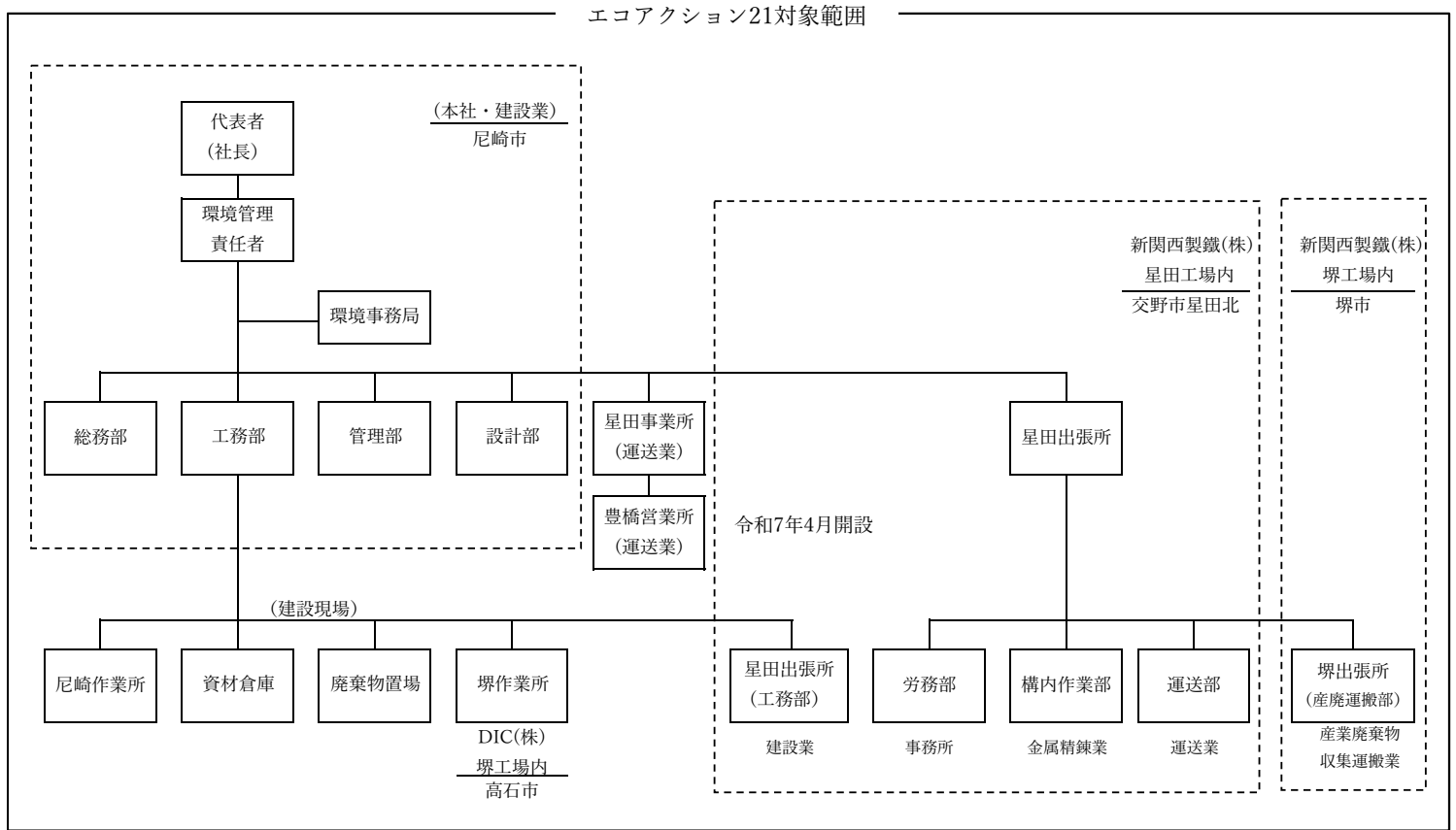
名称	台数	最大積載量	登録番号	台数	最大積載量	登録番号
トラクター	1	28,300 kg	大阪133 を 80	1	28,300 kg	大阪130 く 91
	1	24,900 kg	大阪130 を 81	1	28,400 kg	大阪130 こ 92
	1	28,300 kg	大阪130 け 82	1	28,500 kg	大阪130 こ 93
	1	28,700 kg	大阪130 こ 83	1	28,300 kg	大阪130 か 94
	1	28,100 kg	大阪131 く 84	1	28,700 kg	大阪130 け 95
	1	28,200 kg	大阪130 こ 85	1	28,200 kg	大阪130 こ 96
	1	27,800 kg	大阪131 く 86	1	28,200 kg	大阪130 え 97
	1	28,300 kg	大阪132 あ 87	1	29,100 kg	大阪130 け 84
	1	24,900 kg	大阪130 を 88	1	27,800 kg	大阪148 き 88
	1	28,300 kg	大阪130 け 89	1	24,900 kg	大阪130 を 95
	1	28,300 kg	大阪130 け 90	1		

【産業廃棄物収集運搬業用車両：計3台】

名称	台数	最大積載量	登録番号
10tダンプ	1	8,000kg	神戸130 た 51
	1	8,200kg	大阪130 セ 52
	1	8,300kg	大阪130 た 53



(8) 組織（実施体制図）および役割・責任・権限表



	役割・責任・権限	
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 経営における課題とチャンスの明確化 	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し・指示 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規制等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営活動計画書を確認 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括 環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営活動計画書原案の作成 環境経営活動の実績集計 環境関連法規制等取りまとめ表の作成、遵守評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育訓練計画の作成と実施の管理 特定された項目の手順書作成（緊急事態への対応を含む） 環境経営レポートの作成、公開（事務所への備付けと地域事務局への送付）
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 	<ul style="list-style-type: none"> 特定された項目の運用管理 緊急事態対応手順のテスト、訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
工事責任者（工事代理人）	<ul style="list-style-type: none"> 建設現場における環境経営システムの実施 工事担当者及び協力会社員に対する教育訓練の実施 建設現場の環境経営活動計画の実施及び達成状況の報告 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態対応訓練の実施、記録の作成 建設現場での問題点の発見、是正、予防処置の実施 苦情要望の受付、対応、記録及び環境管理責任者への報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 	<ul style="list-style-type: none"> 決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

III. 認証・登録の対象範囲

- 登録組織名 : 内藤建設興業株式会社
- 対象事業所 : 本社・尼崎作業所、堺作業所、星田事業所、星田出張所、堺出張所、資材倉庫、廃棄物置場、**豊橋営業所(令和7年4月開設)**
- 活動 : 土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、産業廃棄物収集運搬業
不動産賃貸業、鉄鋼製品の加工・出荷・運送業務

IV. 主な環境負荷等の実績

(1) 全社

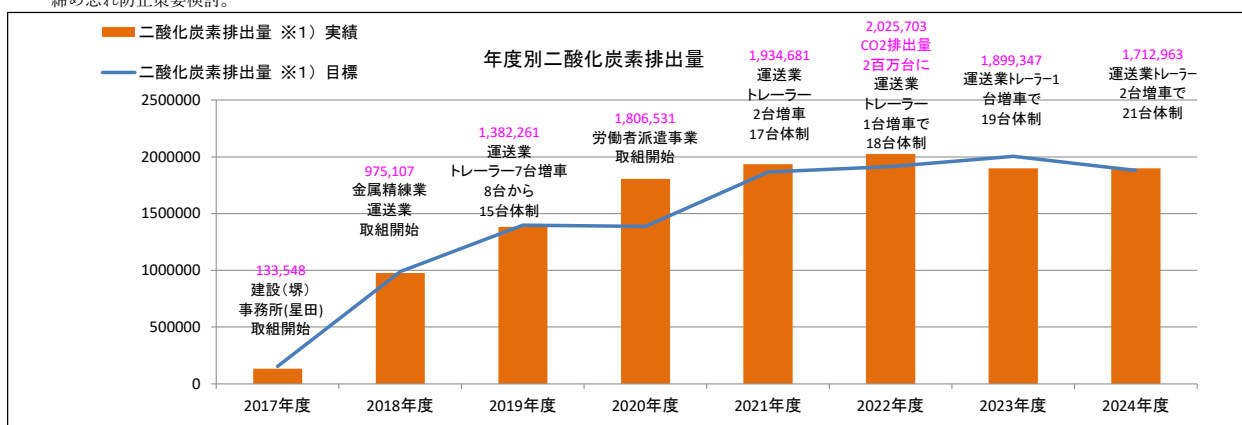
■ 目標達成 ■ 目標未達成

項目	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量 ※1)	目標	154,017	988,202	1,397,453	1,387,467	1,866,887	1,915,334	2,005,446	1,880,353
	実績	133,548	975,107	1,382,261	1,806,531	1,934,681	2,025,703	1,899,347	1,712,963
電力	kWh	18,209	20,843	21,228	28,203	28,089	27,931	27,544	26,192
ガソリン	L	8,966	9,551	10,273	8,558	7,117	6,413	6,115	5,875
軽油	L	40,904	366,402	523,273	688,602	739,524	775,491	726,875	655,075
都市ガス	m ³	525	310	597	307	32	13	21	13
廃棄物排出量	t	330	931.35	605.51	387.23	398.56	1,327.04	355.03	117.16
一般廃棄物	t	1.51	1.20	1.06	0.99	0.88	1.02	0.96	0.74
産業廃棄物	t	328.94	930.15	604.45	386.24	397.68	1,326.02	354.07	116.42
水使用量	m³	408	382	1,075	356	359	451	392	426

※1) CO₂への換算：電力 (kg-CO₂/kWh) : 0.409 (関エネット・2019年度 調整後排出係数) または 0.334 (関西電力㈱・2019年度 調整後排出係数)
ガソリン (kg-CO₂/L) : 2.32、軽油 (kg-CO₂/L) : 2.58、都市ガス (kg-CO₂/m³) : 2.16

※2) 2024年度の軽油給油量が減少したのは、運送業、金属精錬業、産業廃棄物収集運搬業の売上がいずれもやや減少したため。

産業廃棄物排出量は、堺作業所は2023年度と比べ規模が大きい基礎工事がなく大幅に減少し、各建設現場の産業廃棄物が集まる尼崎作業所も、各工事内容に影響をうけるため2024年度は低減した。本社の水使用量の増加は、畑また庭の水やり締め忘れ(多分)が原因で増加している。締め忘れ防止策を要検討。



(2) 環境活動への取組の経緯

2016年度	対象事業所	本社・尼崎作業所(建設業/尼崎市)、堺出張所(産業廃棄物収集運搬業/堺市)取組開始
	特記事項	試行運用期間は、2015年9月-11月
2017年度	対象事業所	堺作業所(建設業/堺市)、星田出張所(事務所/交野市)取組開始
	特記事項	本社・尼崎作業所LED化 ※エコアクション21認証・登録日:2017年6月8日
2018年度	対象事業所	星田出張所(金属精錬業・運送業/交野市)取組開始
	特記事項	星田出張所(取引先敷地内・賃貸事務所)は、年度中に2度の事務所移転があり 運送業のトレーラーは、年度当初は7台体制から2019年1月に1台増車し8台体制となった 二酸化炭素排出量が格段に増加したのはこの運送業のトレーラーの軽油使用による
2019年度	特記事項	星田出張所(運送業)のトレーラーが年度当初8台体制から年度中5月、7月、1月~3月と増車し 年度末には15台体制となった 星田出張所(事務所・賃貸)は、昨年度2度の事務所移転があり 事務所の設備・環境が変わったため、増車した運送業とともに改めて2019年度を基準年度とし 実績把握および取組を開始した
2020年度	対象事業所	星田事業所(運送業・労働者派遣事業/交野市)取組開始 ※対象事業所が全社となる。
	特記事項	本社・尼崎作業所 太陽光設備設置 本社工用車の1台を電気自動車に変更
2021年度	特記事項	本社・尼崎作業所の購入電力を尼崎市のグリーンエネルギーに変更 運送業においては、9月に2台増車の17台体制となったが、拠点の星田事業所は本格稼働にはいたっていない 段階的に対象事業所を拡大してきたのが、本社・尼崎作業所が5年間総括の本年度、全体敵に今までの取組を 総括し、あらためて現状を把握する年とした。本社はガス使用の暖房機を原則使用禁止とした。
2022年度	特記事項	運送業においては、11月に1台増車の18台体制に。2月に本社工用車を電気自動車に更新。電気自動車2台目となる。 11月省エネ診断を受診。本社内エアコンを高効率機種へ更新し社内の太陽光設備で発電した電力の自家消費量を 現状より増やすことで省エネルギーと脱炭素化経営を推進していく。本社の都市ガスは、2021年11月に本社常駐 社員が退職したため、ガス暖房機の使用率が0%となり使用量がさらに減り、前年度の半以下となった。 尼崎作業所(本社内)の社用車の軽油が減少しているのも同様の理由で使用量が削減できた。
2023年度	対象事業所	2023年度は、労働者派遣事業撤退のため、星田事業所(交野市)は、運送業のみの取組となった。
	特記事項	本社・事務所の空調機を7月に更新。空調機の電力が動力契約のため、太陽光発電設備(従量電灯)の発電を利用でき ない状況から、空調機の更新により事務所照明と同じ従量電灯契約に変更できた。次年度以降、自社の太陽光設備の 発電量の自家消費率をあげていくことが目標。運送業においては、10月に1台増車の19台体制に。
2024年度	特記事項	前年度空調設備(単相)設置のうち、一部配線ミスがあり、修正することにより電気量について下記の通り結果として 表れてきている。太陽光発電設備設置以来、売却電力量は維持されており、2024年度については9010Kwh又、単相省エネ エアコン結線誤り修正後、(2025年2月)、2025年3月以降動力購入が減り(0)、今後さらに自家消費率が上昇し、購入 電力(合計)が減少していくものと予想される。(実録2025年4月以降減少)

(3) 運送業・産業廃棄物収集運搬業の二酸化炭素排出量

当社のエコアクション21の取組みは、運送業を追加した2018年より大きく変わりました。2024年度、全社の二酸化炭素の排出量のうち95.0%が運送業、3.1%が産業廃棄物収集運搬業の軽油によります。この2事業で2020年度より5年度連続、全社の98%以上の二酸化炭素を排出しています。

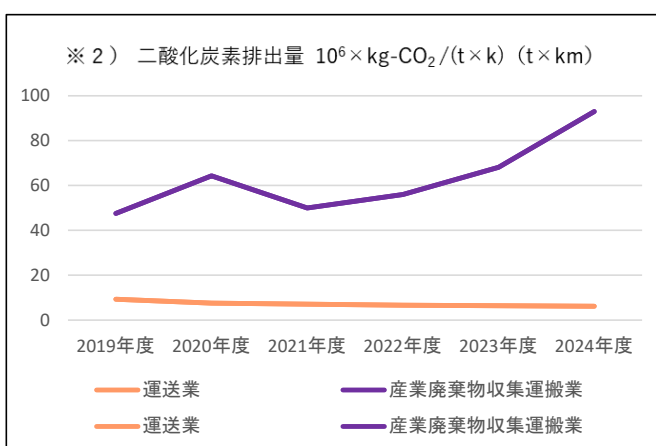
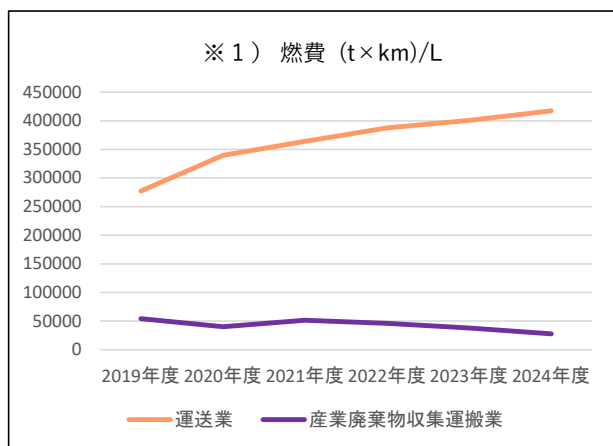
運送業	走行距離 km	給油量 L	燃費 km/L	※1)			※2)			
				運送量 t	燃費 (t・km)/L	CO ₂ 排出量 kg-CO ₂	CO ₂ 排出量 kg-CO ₂ /t	10 ⁶ *kg-CO ₂ / (t・km)	CO ₂ 排出量 %	車輜 台数
2019年度	1,201,432	476,672.03	2.52	110,014	277,286	1,229,813.84	11.18	9.31	89.00	8→15
2020年度	1,679,643	650,782.97	2.58	131,854	340,310	1,679,020.06	12.76	7.60	92.90	15
2021年度	1,826,210	698,047.00	2.62	139,212	364,202	1,800,959.33	12.94	7.09	93.10	15→17
2022年度	1,933,260	740,695.61	2.61	148,537	387,690	1,910,994.67	12.87	6.66	94.30	17→18
2023年度	1,794,818	697,994.16	2.57	155,866	400,793	1,800,824.93	11.55	6.44	94.80	18→19
2024年度	1,580,484	628,688.16	2.51	166,049	417,437	1,622,015.45	9.77	6.18	95.00	19→21

産業廃棄物 収集運搬業	走行距離 km	給油量 L	燃費 km/L	運搬量	※1)			※2)			
					燃費 (t・km)/L	CO ₂ 排出量 kg-CO ₂	CO ₂ 排出量 kg-CO ₂ /t	10 ⁶ *kg-CO ₂ / (t・km)	CO ₂ 排出量 %	車輜 台数	
2019年度	88,319	35,590.05	2.48	21,850	54,222	91,822.33	4.20	47.55	6.60	3	
2020年度	72,500	29,374.41	2.47	16,261	40,134	75,785.98	4.66	64.28	4.20	3	
2021年度	78,563	31,694.48	2.48	20,783	51,516	81,771.76	3.93	50.02	4.20	3	
2022年度	69,836	26,886.80	2.60	17,760	46,130	69,367.94	3.91	55.99	3.40	3	
2023年度	59,705	22,825.00	2.62	14,475	37,863	58,888.50	4.07	68.14	3.10	3	
2024年度	48,340	20,256.81	2.39	11,627	27,746	52,262.57	4.49	92.99	3.10	3	

※1) 貨物輸送量あたりの燃費 ((運送量 (運搬量) t × 走行距離 km) ÷ 給油量 L) は、運送業が高く産業廃棄物収集運搬業が低くなっており、全社の二酸化炭素排出量の90%以上を排出している運送業が産業廃棄物収集運搬業より燃費が良いことがわかります。

km/Lの燃費は新型車両導入時期の割合及び運転手個々の日々の省エネ対策に左右されます。t・km/Lの燃費の改善は、2024年問題の労働時間削減等に端を発する走行距離の減少及び帰り便の活用 (空荷を無くす) に取り組んだこととドライバーに対してのエコドライブの啓発とその実行および車輛整備の励行によるものと考えられます。

※2) 貨物輸送量あたりのCO₂排出量10⁶kg-CO₂ ÷ t・kmは、運送業が低く、産業廃棄物収集運搬業が高くなっており、こちらも運送業の二酸化炭素排出量が年々低くなっているのが見て取れますが、産業廃棄物収集運搬業は大幅に悪化しているため、車両の老朽化及び積込効率の問題かどうか検証が必要。



2024年度は、運送業で2台増車しましたが全社的には4年ぶりに二酸化炭素排出量の削減目標を達成できました。また次年度は、運送業の新拠点の開設される予定で、車輛台数も増えるため、二酸化炭素排出量総数だけでなく貨物輸送量 (トンキロ) 当たりの軽油使用量、二酸化炭素排出量にも着目して取組みをつづけます。

V. 環境経営目標

(1) 中期目標：本社・尼崎作業所・堺作業所（建設業・不動産賃貸業） - ①

項目	事業所	2024年度	2025年度	2026年度 2027年度	
I. 二酸化炭素 排出量削減 ※1	本社 尼崎作業所 堺作業所	2023年度実績 18,281 kg-CO ₂ の△1%	2024年度実績 16,459 kg-CO ₂ の△1%	前年度 実績の	
		18,098 kg-CO ₂ 以下	16,294 kg-CO ₂ 以下	△1%	
1) 電力 使用量削減 <u>CO₂への換算 (kg-CO₂/kWh)</u> 本社・尼崎作業所：0.409 (㈱エネット・2019年度 調整後排出係数) 堺作業所：0.334 (関西電力㈱・2019年度 調整後排出係数)	本社	2023年度実績 2,326 kWhの△1%	2024年度実績 1,183 kWhの△1%	前年度 実績の	
		2,303 kWh以下 (942 kg-CO ₂ 以下)	1,171 kWh以下 (479 kg-CO ₂ 以下)	△1%	
	尼崎作業所	2023年度実績 5,379 kWhの△1%	2024年度実績 4,994 kWhの△1%	前年度 実績の	
		5,325 kWh以下 (2,178 kg-CO ₂ 以下)	4,944 kWh以下 (2,022 kg-CO ₂ 以下)	△1%	
	堺作業所	2023年度実績 7,245 kWhの△1%	2024年度実績 5,978 kWhの△1%	前年度 実績の	
		7,173 kWh以下 (2,395 kg-CO ₂ 以下)	5,918 kWh以下 (1,977 kg-CO ₂ 以下)	△1%	
< 目標値計： 14,801 kWh / 5,515 kg-CO ₂ 以下 >					
< 実績値計： 12,155 kWh / 4,523 kg-CO ₂ >					
2) ガソリン 使用量削減 <u>CO₂への換算 (kg-CO₂/L)：2.32</u>	本社	2023年度実績 56 Lの△1%	2024年度実績 0 Lの維持	前年度 実績の	
		55 L以下 (127 kg-CO ₂ 以下)	2025年度は尼崎作業所に 含む	—	
	尼崎作業所	2023年度実績 138 Lの△1%	2024年度実績 115 Lの△1%	前年度 実績の	
		137 L以下 (318 kg-CO ₂ 以下)	114 L以下 (264 kg-CO ₂ 以下)	△1%	
	堺作業所	2023年度実績 4,395 Lの△1%	2024年度実績 4,318 Lの△1%	前年度 実績の	
		4,351 L以下 (10,094 kg-CO ₂ 以下)	4,275 L以下 (9,918 kg-CO ₂ 以下)	△1%	
< 目標値計： 4,543 L / 10,539 kg-CO ₂ 以下 >					
< 実績値計： 4,433 L / #VALUE! >					
3) 軽油 使用量削減 <u>CO₂への換算(kg-CO₂/L)：2.58</u>	尼崎作業所	2023年度実績 61 Lの△1%	2024年度実績 318 Lの△1%	前年度 実績の	
		60 L以下 (155 kg-CO ₂ 以下)	315 L以下 (812 kg-CO ₂ 以下)	△1%	
	堺作業所	2023年度実績 722 Lの△1%	2024年度実績 311 Lの△1%	前年度 実績の	
		715 L以下 (1,844 kg-CO ₂ 以下)	308 L以下 (794 kg-CO ₂ 以下)	△1%	
	< 目標値計： 775 L / 1,999 kg-CO ₂ 以下 >				
	< 実績値計： 629 L / 1,623 kg-CO ₂ >				
4) 都市ガス 使用量削減 <u>CO₂への換算(kg-CO₂/m³)：2.16</u>	本社	2023年度実績 21 m ³ の△1%	2024年度実績 13 m ³ の△1%	前年度 実績の	
		20.8 以下 (45 kg-CO ₂ 以下)	12.9 m ³ 以下 (28 kg-CO ₂ 以下)	△1%	
	尼崎作業所				
< 目標値計： 20.8 m ³ / 45 kg-CO ₂ 以下 >					
< 実績値計： 13 m ³ / 28 kg-CO ₂ >					

2016年度より取り組みを開始し、環境活動が全社的に定着したこと、また数値目標をたてることに限界があるため2022年度以降は、前年度の実績の△1%（または+1%）を環境目標とする。
但し、前年度の全項目の二酸化炭素排出量の合計の△1%を基に、各項目の目標値を設定しているため若干誤差がでる。

※1) CO₂への換算：電力(kg-CO₂/kWh)：0.409(㈱エネット・2019年度 調整後排出係数)または0.334(関西電力㈱・2019年度 調整後排出係数)
ガソリン(kg-CO₂/L)：2.32、軽油(kg-CO₂/L)：2.58、都市ガス(kg-CO₂/m³)：2.16

(1) 中期目標：本社・尼崎作業所・堺作業所（建設業・不動産賃貸業） - ②

項目	事業所	2024年度	2025年度	2026年度 2027年度
II. 廃棄物の削減	本社	2023年度 実績354.95tの△1%	2024年度 実績117.09△1%	前年度 実績の
< 目標値計 : 351.40t以下 >	尼崎作業所			
< 実績値計 : 117.09t >	堺作業所	351.40t以下	115.92t以下	△1%
1) 一般廃棄物の削減	本社 尼崎作業所	2023年度 実績0.88tの△1%	2024年度 実績0.67tの△1%	前年度 実績の
< 目標値計 : 0.87t以下 >		0.87t以下	0.66 t以下	△1%
< 実績値計 : 0.67t >	堺作業所	本社にて 一括処理	本社にて 一括処理	本社にて 一括処理
2) 産業廃棄物の削減 ※1	尼崎作業所	2023年度 実績7.43tの△1%	2024年度 実績6.42tの△1%	前年度 実績の
< 目標値計 : 350.53t以下 >		7.36t以下	6.36 t以下	△1%
< 実績値計 : 116.42t >	堺作業所	2023年度 実績346.64tの△1%	2024年度 実績110tの△1%	前年度 実績の
		343.17t以下	108.90 t以下	△1%
III. 建設リサイクル率の向上 <数値目標設定なし・適正管理> ※1	尼崎作業所	適正管理 (2023年度実績：0.00%)	適正管理 (2024年度実績：85.00%)	適正管理
< 2023年度実績計 : 97.90% >	堺作業所	適正管理 (2023年度実績：100%)	適正管理 (2024年度実績：100.00%)	
< 2024年度実績計 : 98.96% >				
IV. 水使用量の削減	本社	2023年度 ※3 実績353㎡の△1%	2024年度 ※3 実績388㎡の△1%	前年度 実績の
< 目標値計 : 349.5㎡以下 >	尼崎作業所	349.5 ㎡以下	384.1 ㎡以下	△1%
< 実績値計 : 388.0㎡ >				
V. 工事における環境配慮 右記重点項目の実施とチェック及び評価	尼崎作業所	①低騒音・低振動機器・重機の採用 ②粉じん発生抑制・拡散防止(散水・囲い) ③建設副産物の発生抑制、リユース、リサイクル、適正処理推進		
<数値目標設定なし>	堺作業所	④仮設資材のリユース ⑤濁水の発生抑制・回収・適正処理 ⑥ダンプ・重機のアイドリングストップ等		
VI. 緑化推進	本社	2023年度 実績の+1%	産業廃棄物コンテナを 自家用車に見立てた グリーンカーポートの 計画案の作成 ※2)	グリーン カーポート および 建物緑化 (本社倉庫) の施工
本社・尼崎作業所敷地面積：1,208.73㎡ うち緑地面積：213.11㎡ (17.63%)	尼崎作業所	17.81%以上		
VII. 課題とチャンス	本社 (事務所)	・空調設備を更新し太陽光設備の自家消費率上げる。 ・社内コミュニケーションの推進 ・健康経営優良法人への認定と社内での取組の推進		前年度の 評価実施後 目標設定
<数値目標設定なし>	尼崎作業所 堺作業所 (建設業)	・人材確保 ・社内コミュニケーションの推進 ・健康経営優良法人への認定と社内での取組の推進		

※1) 建設リサイクル率は、工事内容により大きく左右されるため数値目標を設定せず適正管理とし、参考値として実績を集計する。 建設リサイクル率＝再資源化量／産業廃棄物発生量×100%

※2) 緑化推進については、数値目標としては達成できていなかった。次年度は具体的に数値で目標達成するのではなくSDGs 11ゴール「住み続けられるまちづくりを」ともからめて、グリーンカーポート計画をまとめる年度とする。2024年度中に計画をまとめ、2025年度にグリーンカーポートと本社倉庫の建物緑化の施工を目指す。

※3) 水使用量の増加は植木水やりの止水忘れによるものと思われる。

※4) 化学物質を使用していないため目標設定をしていない。

(2) 中期目標：星田事業所・星田出張所（運送業・金属精錬業）・堺出張所（産業廃棄物収集運搬業）

項目	事業所	2024年度	2025年度	2026年度 2027年度
I. 二酸化炭素 排出量削減	星田事業所 星田出張所 堺出張所	2023年度実績 1,881,066 kg-CO ₂ の△1%	2024年度実績 1,696,504 kg-CO ₂ の△1%	前年度 実績の
		1,862,255 kg-CO ₂ 以下	1,679,539 kg-CO ₂ 以下	△1%
1) 電力 使用量削減 CO ₂ への換算 (kg-CO ₂ /kWh) : 0.334 (関西電力(株) 2019年度 調整後排出係数)	星田事業所	2023年度実績 4,759 kWhの△1%	2024年度実績 5,345 kWhの△1%	前年度 実績の
		4,711 kWh以下 (1,573 kg-CO ₂ 以下)	5,292 kWh以下 (1,767 kg-CO ₂ 以下)	△1%
	星田出張所	2023年度実績 7,835 kWhの△1%	2024年度実績 8,692 kWhの△1%	前年度 実績の
< 目標値計 : 12,468 kWh / 4,164 kg-CO ₂ 以下 >		7,757 kWh以下 (2,591 kg-CO ₂ 以下)	8,605 kWh以下 (2,874 kg-CO ₂ 以下)	△1%
< 実績値計 : 14,037 kWh / 4,688 kg-CO ₂ >				
2) ガソリン 使用量削減 CO ₂ への換算 (kg-CO ₂ /L) : 2.32	星田事業所 星田出張所	2023年度実績 1,526 Lの△1%	2024年度実績 1,442 Lの△1%	前年度 実績の
		1,511 L以下 (3,506 kg-CO ₂ 以下)	1,428 L以下 (3,312 kg-CO ₂ 以下)	△1%
	社用車共用			
3) 軽油 使用量削減 CO ₂ への換算(kg-CO ₂ /L) : 2.58	星田出張所 金属精錬業	2023年度実績 5,273 Lの△1%	2024年度実績 3,789 Lの△1%	前年度 実績の
		5,220 L以下 (13,468 kg-CO ₂ 以下)	3,751 L以下 (9,678 kg-CO ₂ 以下)	△1%
	星田事業所 運送業	2023年度実績 697,994 Lの△1%	2024年度実績 630,400 Lの△1%	前年度 実績の
		691,014 L以下 (1,782,817 kg-CO ₂ 以下)	624,096 L以下 (1,610,168 kg-CO ₂ 以下)	△1%
	堺出張所	2023年度実績 22,825 Lの△1%	2024年度実績 20,257 Lの△1%	前年度 実績の
< 目標値計 : 718,831 L以下 1,854,585 kg-CO ₂ 以下 >	産業廃棄物 収集運搬業	22,597 L以下 (58,300 kg-CO ₂ 以下)	20,054 L以下 (51,740 kg-CO ₂ 以下)	△1%
< 実績値計 : 654,446 L / 1,688,471 kg-CO ₂ >				
II. 一般廃棄物の削減	星田事業所 星田出張所	2023年度実績 0.08 tの△1%以下	2024年度実績 0.07 tの△1%以下	前年度 実績の
< 目標値計 : 0.08 t以下 >		0.08t以下	0.07t以下	△1%
< 実績値計 : 0.07 t >				
III. 水使用量の削減	星田事業所	2023年度 実績39m ³ の△1%	2024年度実績 38m ³ の△1%	前年度 実績の
< 目標値計 : 38.6 m ³ 以下 >		38.6 m ³ 以下	37.6 m ³ 以下	△1%
< 実績値計 : 38.0 m ³ >				
IV. 課題とチャンス	星田事業所 星田出張所 堺出張所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運送業の拠点を増やす ・ 新規取引先開拓 ・ Gマーク取得の準備 ・ 多能工化 ・ 残業管理（残業者の偏り緩和） ・ 健康経営優良法人への認定と社内での取組の推進 		前年度の 評価実施後 目標設定
< 数値目標設定なし >				

※1) 前年度の全項目の二酸化炭素排出量の合計の△1%を基に、各項目の目標値を設定しているため若干誤差がでる。

※2) 化学物質を使用していないため目標設定をしていない。

VI. 環境実績 (2024年度実績)

(1) 本社・尼崎作業所・堺作業所 (建設業・不動産賃貸業) - ①

項目		年度	2024年度			
			目標	実績	達成度※1)	評価※2)
I. 二酸化炭素排出量削減		kg-CO ₂	17,971 以下	16,459	109%	○
電力 使用量削減	本社 (動力)	kWh	2,303 以下	1,183	195%	○
		kg-CO ₂	942 以下	484		
	尼崎作業所 (従量電灯)	kWh	5,325 以下	4,994	107%	○
		kg-CO ₂	2,178 以下	2,042		
	堺作業所	kWh	7,173 以下	5,978	120%	○
		kg-CO ₂	2,395 以下	1,997		
計	kWh	14,801 以下	12,155	122%	○	
	kg-CO ₂	5,515 以下	4,523			
ガソリン 使用量減	本社・尼崎作業所	L	137 以下	115	119%	○
		kg-CO ₂	318 以下	267		
	堺作業所	L	4,351 以下	4,318	101%	○
		kg-CO ₂	10,094 以下	10,018		
	計	L	4,488 以下	4,433	101%	○
		kg-CO ₂	10,412 以下	10,285		
軽油 使用量削減	尼崎作業所	L	60 以下	318	19%	×
		kg-CO ₂	155 以下	821		
	堺作業所	L	715 以下	311	230%	○
		kg-CO ₂	1,844 以下	802		
	計	L	775 以下	629	123%	○
		kg-CO ₂	1,999 以下	1,623		
都市ガス 使用量削減	本社	m ³	20.8 以下	13	160%	○
	尼崎作業所	kg-CO ₂	45 以下	28		

※1) 達成度欄にて、削減を目指す場合は、達成度 = 目標 ÷ 実績 × 100%

増加を目指す場合は、達成度 = 実績 ÷ 目標 × 100%

※2) 評価欄にて、○：達成(100%以上)、△：やや未達成(90~100%未満)、×：未達成(90%未満)

※3) 実績値の二酸化炭素排出量は、実際には小数点2位まで詳細集計しているため若干の誤差がでる。

※4) 本社電力量が大幅に目標達成したのは、2020年度に設置した太陽光発電設備の自家発電量を上げるため従来の動力(3相200V)での空調設備を、2023年7月に従量電灯(単相200V)に更新したため、及び2025年2月には配線修正によりさらに自社の太陽光発電量を本社の空調設備に充てることができるようになり使用量が減少した。又、尼崎作業所は建設工事減少に伴ない目標達成。

次年度は、今年度の実績値をもとに目標値を設定し、取組みを続ける。

※5) 本社のガソリンが激減したのは、社用車2台を電気自動車に更新したことによる。

堺作業所の軽油の減少は、建設工事が減り、社用車の使用頻度が下がったことが要因。

(1) 本社・尼崎作業所・堺作業所 (建設業・不動産賃貸業) - ②

項目		年度	2024年度			
			目標	実績	達成度	評価
II. 廃棄物削減		t	351.40 以下	117.09	300%	○
一般廃棄物 削減	本社 尼崎作業所	t	0.87 以下	0.67	130%	○
	尼崎作業所	t	7.36 以下	6.42	115%	○
産業廃棄物 削減	堺作業所	t	343.17 以下	110.00	312%	○
	計	t	350.53	116.42	301%	○
	III. 建設リサイクル率の向上 (数値目標設定なし・適正管理)		%	適正管理 参考値 2023年度実績：97.90% (346.64t/354.07t)	適正管理 参考値 2024年度実績：98.96% (115.21t/116.42t)	—
尼崎作業所		%	適正管理 参考値 2023年度実績：0.00% (0.00t/7.43t)	適正管理 参考値 2024年度実績：81.15% (5.21t/6.42t)	—	○
堺作業所		%	適正管理 参考値 2023年度実績：100% (346.64t/346.64t)	適正管理 参考値 2024年度実績：100% (110t/110t)	—	○
IV. 水使用量削減		m ³	349.5 以下	388	90%	×
V. 工事における環境配慮 (数値目標設定なし)		—	① 低騒音・低振動機器・重機の採用 ② 粉じん発生抑制・拡散防止(散水・囲い) ③ 建設副産物の発生抑制、リユース リサイクル、適正処理推進 ④ 仮設資材のリユース ⑤ 濁水の発生抑制・回収・適正処理 ⑥ ダンプ・重機のアイドリングストップ等		—	○
VI. 緑化推進 本社・尼崎作業所敷地面積：1,208.73m ² うち緑地面積：213.11m ² (17.63%)		%	17.81 以上	17.63	±0%	×
VII. 課題とチャンス (数値目標設定なし)		取り組み内容 ・人材確保に向けて人材会社との契約を継続し、求人内容やスカウトメールのブラッシュアップを行う。又、若年層の獲得に向けて対策検討を進める。 ・社内ミーティングを充実させ、全社的な連携を模索する。 ・尼崎市脱炭素経営宣言・認定制度に応募し、ブロンズランク認定を受けた。(2025年5月)今後もCO ₂ 排出量の削減をひとつの手がかりにして環境改善に取り組む。 ・2024年度も健康優良法人の認定を受けた。(3月) 健康と環境、労働に関する社内報を充実させ、全社的に健康に関する取組みを進める。(糖化度測定機器を2025年6月にレンタルし、老化チェックをした。)				○

(2) 星田事業所・星田出張所（運送業・金属精錬業）
堺出張所（産業廃棄物収集運搬業）

項目		年度	2024年度			
			目標	実績	達成度※1)	評価※2)
I. 二酸化炭素 排出量削減 ※3)		kg-CO ₂	1,862,255 以下	1,696,504	110%	○
電力 使用量削減	星田事業所	kWh	4,711以下	5,345	88%	×
		kg-CO ₂	1,573以下	1,785		
	星田出張所	kWh	7,757以下	8,692	89%	×
		kg-CO ₂	2,591以下	2,903		
	計	kWh	12,468以下	14,037	89%	×
		kg-CO ₂	4,164以下	4,688		
ガソリン 使用量削減	星田事業所	L	1,511以下	1,442	105%	○
	星田出張所	kg-CO ₂	3,506以下	3,345		
軽油 使用量削減	星田出張所 (金属精錬業)	L	5,220以下	3,789	138%	○
		kg-CO ₂	13,468以下	9,776		
	星田事業所 (運送業)	L	691,014以下	630,400	110%	○
		kg-CO ₂	1,782,817以下	1,626,432		
	堺出張所 (産業廃棄物収集運搬業)	L	22,597以下	20,257	112%	○
		kg-CO ₂	58,300以下	52,263		
計	L	718,831以下	654,446	110%	○	
kg-CO ₂	1,854,585以下	1,688,471				
都市ガス 使用量削減	星田事業所	m ³	該当なし	-	-	-
		kg-CO ₂				
II. 廃棄物削減		t	0.08以下	0.07	114%	○
一般廃棄物 削減		t	0.08以下	0.07	114%	○
産業廃棄物 削減 (適正管理)		t	該当なし	-	-	-
III. 建設リサイクル率 向上		%	該当なし	-	-	-
IV. 水使用量 削減	星田事業所	m ³	38.6以下	38	102%	○
V. 工事における 環境配慮		件	該当なし	-	-	-
VII. 課題とチャンス (数値目標設定なし)		取り組み内容				評価
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所、出張所共に電力使用量削減は未達。仕事量増大によるものとする。 ・運送業の拠点をあらたに豊橋市（愛知県）に新設。 豊橋市に拠点ができることにより、短距離業務の注文を獲得し、労働時間の組み合わせの選択肢を増やし、2024年問題の解消を容易にする。 ・新規取引先開拓については、次年度も引き続き取り組みを継続する。 ・Gマーク取得の準備をすすめていたが、業務多忙につき2025年度以降申請になる見込み。 ・運送業のドライバーの人材確保のために歩合制が多い中、安定的な固定給与を取り入れていることにより人材不足を解消している。 				○

Ⅶ. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

評価：○できた △あまりできなかった ×できなかった

取組計画	取組達成状況			評価結果と次年度の取組内容	次年(2025年)度の環境経営計画	
	全社	本社	星田			
Ⅰ. 二酸化炭素排出量の削減				・ 本社、尼崎作業所、堺作業所：電力、ガソリン、軽油、産業廃棄物共に各所、削減を周知徹底し取り組むことができた。節水を意識しつつも水使用量において止水漏れあり次年度の課題とする。	2024年度の△1%	
				・ 星田出張所、星田事業所、堺出張所：電力は構造上の問題もあり未達成となったが、他の項目においては、意識的に削減に取り組むことができた。	2024年度の△1%	
	(詳細、下記各項)					
電力使用量の削減						
・ 空調温度の適正化(冷房28℃暖房18℃)	○	○	×	星田出張所はプレハブ造のため、夏は暑く、冬は寒いため冷房器具、暖房器具の設定温度が守りにくい。	次年度も左記の取組みを継続する。	
・ サーキュレーターの活用	—	×	—	本社は、設置しているが活用できていない。		
・ 不要照明の消灯	○	○	○	階段での消し忘れ等、不要照明の消灯を徹底する。		
・ 設備の空運転禁止	○	○	○	昼休みなど長時間不使用時には対応できた。		
ガソリン使用量の削減						
・ アイドリングストップ	○	○	○	もっと意識をしてエコドライブを実行する。		
・ 急加速・急停車の防止	○	○	○	普段より安全運転に注意しているのでまずまずできた。		
・ 効率的な移動	○	○	○	もっと無駄を省く計画性が必要と思われる。		
軽油使用量の削減						
・ 重機の空ふかしの禁止	○	○	○	急がず適正な工程により冷静な運転を心掛ける。		
・ アイドリングストップ	○	○	○	作業待ち時にこまめにアイドリングストップした。		
・ 空気圧、オイル等の点検	○	○	○	始業前点検表をすべての工事で活用するようにする。		
都市ガスの削減						
・ ガス給湯器の使用	○	○	—	冬の寒い時期を除き使用を控える。		
Ⅱ. 廃棄物の削減					2024年度実績の△1%	
一般廃棄物の削減						
・ 実態調査	○	○	○	正確な排出量を把握する工夫をする。	次年度も左記取組を継続する。	
・ 分別の徹底	○	○	○	生ゴミをコンポストへなど、分別を更に徹底する		
・ ミスコピー防止・裏紙活用	○	○	○	ペーパーレスを進める		
産業廃棄物の削減						
・ 実態調査	○	○	—	正確な排出量を把握する工夫をする。		
・ 素材ボックスの設置	○	○	—	分別ができ、状態が把握できるようになった。		
・ 保管場所の掲示板を設置	○	○	—	設置済みである。		
Ⅲ. 建設リサイクル率の向上						
・ 分別によるリサイクル推進	○	○	—	混合処分を減らす努力をしている(混合処分でも、リサイクル率85%)		
・ 仮設資材の再利用の推進	○	○	—	再利用できる様にこまめに仮設資材を整備している。		
Ⅳ. 水使用量の削減						
・ 節水の周知徹底	○	△	○	節水の呼びかけにより達成できたが、ピオトープ、庭の水やりの止め忘れ防止策を考える。		
・ 節水シールの貼付とポスター掲示の検討	○	△	○	簡単なシール等を掲示した結果、意識が向上しつつあるので、ポスター掲示も検討する。		
・ 清掃時・手洗い時の節水	○	○	○	より多くの工夫ができるようにする。		
Ⅴ. 工事における環境配慮					次年度も左記取組を継続する。	
・ 環境配慮重点事項の設定と評価	○	○	—	環境配慮重点事項を設定し安全パトロール時に適切に実施されているかチェックおよび評価をする。		
・ 低騒音・粉じん発生抑制他	○	○	—	技術開発テーマが未定。要検討。		
Ⅶ. 緑化推進					次年度は数値目標でなく本社の緑化の計画案を策定する。	
・ 敷地内の緑化率の測定	△	○	—	測量済。目標を再設定をする。		
・ 緑化可能範囲の設定	△	×	—	建物の緑化の検討中。(グリーンタワーも構想中。)		

※1) 取組達成状況欄にて、本社：本社・尼崎作業所・堺作業所（建設業・不動産賃貸業）
星田：星田事業所・星田出張所（運送業・金属精錬業）・堺出張所（産業廃棄物収集運搬業）

VIII. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守する事項	遵守評
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	保管基準の遵守、収集運搬・処分業者との適正な契約、 マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出 前年度における産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場を設置する場合 産業廃棄物処理計画書、産業廃棄物処理計画実施状況報告書の提出	遵守
建設リサイクル法	建築物等の分別解体義務、事前届出 特定建設資材廃棄物の再資源化義務	遵守
建設業の再生資源利用省令	再生資源、建設工事副産物の再利用 再生資源利用計画書、実施記録の作成	遵守
大気汚染防止法	特定粉じん排出等作業の実施の届出、作業基準の遵守	遵守
自動車NOx・PM法	規制対象車両の登録禁止 規制対象車両の指定地域通行禁止	遵守
騒音規制法	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
振動規制法	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
尼崎市公害防止条例	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
オフロード法	基準に適合した特定特殊自動車の使用	遵守
低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程	低騒音・低振動型建設機械の使用の促進	遵守
消防法	(防火対象物) 防火管理者の届出、消防計画の作成、避難訓練の実施、 消火設備・火災警報設備の点検整備、避難設備の維持 (危険物取扱所) 設置許可、技術基準の遵守、危険物保安監督者の届出、 定期点検の実施と記録の保存	遵守
尼崎市火災予防条例	火災発生の恐れのある機器の取扱基準の遵守、指定数量未満の危険物・ 可燃物の貯蔵の届出及び技術基準の遵守	遵守
フロン排出抑制法	フロン類使用機器の定期点検と記録、漏洩防止、廃棄時の適切な処理	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。

関係当局より違反等の指摘もありませんでした。なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありません。

IX. 代表者による全体の評価と見直し・指示

当社は、地域の一員として「もったいない」を標語とし、地球環境の保全のために環境負荷の一層の低減を図るべくエコアクション21に取り組んできました。

2024年度は、売上高は建設業は大幅減少、運送業、金属精錬業、不動産賃貸業はほぼ横ばい、産業廃棄物収集運搬業は微減少、全社売上は前年度比82%となりました。

建設業については、売上高こそ減少していますが、事業活動に大きな変化はないため環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画及び実施体制については変更の必要はないと判断します。

しかし、運送業については、2024年問題（主として労働時間削減）対応のため豊橋営業所開設並びに増車が予定(2025年4月1日開設済)しています。

運送業増車にともなう環境負荷を考える時、運送業におけるGマーク、グリーン経営認証登録等のツールを利用し、エネルギー消費削減の取り組み強化を進めるべく、具体的に取り組んでいきます。(省エネタイヤ及びリトレッドタイヤの採用検討)

環境活動は、会社の業績と切り離して取り組むことは難しいので、単に数値目標を達成したか否かだけでなく、総合的に経過を観察し有効な社内運用を継続します。

意識レベルの向上に向けて、計画済の緑化タワーについて、今季中に建設にかかる予定です。

2025年5月31日

代表取締役 内藤 隆也